

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	オフィスICTワーク I (WORD、EXCEL)	( TDB101 )
講義名 (コード)	オフィスICTワーク I (WORD、EXCEL)	( TDB101 )
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年 1年生
対象コース	DB1	単位数 2単位
授業担当者	松橋 茉蓉	時間数 30時間
成績評価教員	松橋 茉蓉	講義期間 春学期
実務者教員	はい	履修区分 選択
実務者教員特記欄	業務において実際に使用した経験がある	授業形態 講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	officeのwordとPowerPointについてビジネスレベルの技術を身につける。 E-typing ( <a href="https://www.e-typing.ne.jp">https://www.e-typing.ne.jp</a> ) でスコア250点以上。
全体の内容と概要	授業の進め方としては、「ブランク」を「完成版」に近づけるための操作を学習する。ネットや生成AIなどを使い操作を確認しながら自力での解決を目指し、その後、講師の説明を受け、適
授業時間外の学修	タイピングアプリを使い、タイピングの速度向上に取り組む。
履修上の注意事項等	officeのバージョンによって、若干操作に誤差が出る場合がある。 デジタル・ビジネスコースの学生は必ず自分のPCにアプリをインストールすること。(Web版では十分な機能が学べません)。特にMacの方は、仮想マシン(Parallels Desktop等)を用意し、officeが動作する環境を事前に用意すること。

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Wordのスキル確認	Wordのスキル確認ワークシート検定3級程度の速度入力、ビジネス文書作成について、どの程度対応力があるのかを確認、作成した資料をTeams経由で
2	文章の基本をマスター①	1.そろえ(1)、2.フォント、3.罫線、網かけ、4.段落番号、箇条書き、5.段落内の改行、6.段落の並び替え
3	文章の基本をマスター②	7.編集記号の表示、8.行全体を選択、9.書式のクリア、10.そろえ(均等割り付け)、11.そろえ(タブマーカー)、12.タブリー
4	文章の基本をマスター③	13.脚注、14.検索、15.置換、16.行間と間隔、17.インデント、18.ルーラー
5	文章の応用をマスター①	1.スタイルとは、2.標準、3.表題、4.見出し1、5.見出し2、6.見出しのコツ
6	文章の応用をマスター②	7.ナビゲーション、8.アウトライン、9.見出し番号のズレ、10.見出し番号の応用(連番)、11.目次、12.ページ番号
7	文章の応用をマスター③	13.日付、14.ヘッダー・フッター、15.改ページ(基本)、16.改ページ(応用)、17.ページ余白、18.用紙サイズ、向き
8	プレゼンの本質理解	プレゼンの本質理解聞き手(お客様)を説得するためのプレゼン資料作成とは
9	PowerPointの基本①	1.プレゼンの大原則、2.スライドを作り始める前に、3.スライドサイズの調整、
10	PowerPointの基本②	7.フォントの色を設定、8.テキストボックスを整列、9.スライドマスターとは、
11	PowerPointの基本③	12.シンプルグラフ、13.左グラフ・右メッセージ、14.ワンカラー効果、15.1スライド1グラフ、16.棒グラフ・円グラフ・折れ線グラフ
12	PowerPointの応用①	17.ビジュアルの効果とは、18.画像を挿入する、19.トリミングを使いこなす、20.画像+文字は"透過"する、21.画像の色でメリハリ、22.多画像効果、23.写真のチョイスはセンス良く
13	課題作成	課題作成テーマに基づいた、プレゼンテーション資料をPowerPointを使って作成、提出
14	期末試験	期末試験実施
15	追試	追試実施

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	PDF教材
参考文献・資料等	
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	情報リテラシー I (DB)		( TDB103 )
講義名 (コード)	情報リテラシー I (DB) _ITパスポート		( TDB103 )
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	DB1	単位数	2単位
授業担当者	福井 琢也	時間数	30時間
成績評価教員	福井 琢也	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	情報処理技術者試験のITパスポート試験シラバスV6.3に対応した内容を身に付けることを目的とし、また本授業終了後に、本試験に合格することを到達目標とする。
全体の内容と概要	ITパスポート試験に必要な、ストラテジ系とマネジメント系(春学期)、テクノロジー系(秋学期)の知識をインプットして、問題集で知識をアウトプットする。
授業時間外の学修	授業で学んだ知識(教科書)を整理すること、また問題集を何度も解きなおすこと。
履修上の注意事項等	

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	確認テスト提出	企業活動1回目(経営・組織論/業務分析・データ利活用)
2	確認テスト提出	企業活動2回目(経営・組織論/業務分析・データ利活用)
3	確認テスト提出	企業活動3回目(会計・財務)
4	確認テスト提出	法務1回目(知的財産権/セキュリティ/労働関連/その他)
5	確認テスト提出	法務2回目(知的財産権/セキュリティ/労働関連/その他)
6	確認テスト提出	経営戦略マネジメント(経営戦略/マーケティング/経営管理/その他)
7	確認テスト提出	技術戦略マネジメント1(技術開発戦略/技術開発計画)
8	確認テスト提出	技術戦略マネジメント2(技術開発戦略/技術開発計画)
9	確認テスト提出	システム戦略1(情報システム戦略/業務プロセス/その他)
10	確認テスト提出	システム戦略2(システム化計画/要件定義/調達計画)
11	確認テスト提出	システム開発技術(システム開発技術)
12	確認テスト提出	プロジェクトマネジメントとサービスマネジメント
13	確認テスト提出	システム監査(システム監査/内部統制)
14	期末試験	期末試験実施
15	追試	追試実施

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	ITパスポート教科書&問題集 2025年度版 (TAC出版情報処理試験研究会)
参考文献・資料等	その他資料については、適宜掲示する。
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	情報リテラシー I (DB)		(TDB103)
講義名 (コード)	情報リテラシー I (DB) _通信基礎		(TDB103)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	DB1	単位数	2
授業担当者	伊藤/南/奥村	時間数	30
成績評価教員	佐藤	講義期間	前期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	インターネットを含む通信技術の基礎を学ぶ 有線通話から無線wifiまでのネットワークの基礎理解をベースに、通信のイノベーションをどう新事業やサービスに活かすかを考えられるようになる。
全体の内容と概要	NTTグループ 関係者による通信の歴史、仕組みをオムニバス形式で学ぶ。
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	基礎的用語の理解	通信の基礎、アナログ電話、デジタルとは、符号化とは
2	コンピュータの発展の歴史を理解	コンピュータの歴史 メインフレームからPC,スマホ
3		授業なし
4	交換と伝送、通信の基礎の基礎を知る	交換と伝送、光通信、無線通信、変調とは
5	インターネットとは何かを理解する	データ通信、インターネット、通信プロトコル、IP通信
6		健康診断 授業なし
7	PCの構造を知る	PCの構造 OS,メモリ、CPU、インターフェース、クラウド
8	インターネットプロトコルを知る	インターネットプロトコル概説 LAN、TCP/IP、Layer2/3/4プロトコル
9	アドレスとルーティングの仕組みを知る	アドレスとルーティング、ドメイン名 サーバ、Web、SNS
10	移动通信システムの基礎技術と歴史を知る	移动通信システムのルーツと基礎技術 セルラーシステムの誕生、セルラー技術、無線アクセス技術基礎
11	移动通信システムの進化を知る	移动通信システムの進化（1） 電波利用と黎明期移动通信、1G・2G・3G・3.5Gと無線アクセス技術
12		移动通信システムの進化（2） 3.9G・4Gと無線アクセス技術、IoT通信とLPWA、各種システム、国際標準化
13	5Gの概要を理解する	最新世代5Gの概要と通信技術 5Gと無線アクセス技術
14		試験
15		追試

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	参考資料「5Gの本（電気書院）」
備考	

1. 本授業科目の基本情報			
科目名(コード)	ビジネスマナー I (DB)		( TDB105 )
講義名(コード)	ビジネスマナー I (DB)		( TDB105 )
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	DB1	単位数	2単位
授業担当者	榎本	時間数	30時間
成績評価教員	榎本	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	国際化やデジタル化が進む社会で求められる人財となるために、就活やビジネスの現場に必要な知識やマナーとその背景・理由を理解し、実践スキルを学ぶことを目標とする。
全体の内容と概要	就活や社会人に求められるビジネスマナーやコミュニケーション能力について、具体例から学び、自ら考え、ワーク等を取り入れて身につける。
授業時間外の学修	自分の卒業後の進む道について具体的に考え、実践する姿勢を持つこと。
履修上の注意事項等	出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識(期末試験点) 60%	自己管理能力(出席点) 30%	協調性・主体性・表現力(平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	春期の振り返り	春期に学んだビジネスマナーやホスピタリティ精神について復習する。面接時のマナー等についても振り返る。
2	就活でのマナーについて学ぶ ③	会社説明会や就職活動での面接でのマナーについて、春期の復習と練習
3	組織でのビジネスマナー・コミュニケーションを学ぶ①	上司や同僚とコミュニケーションで望まれるマナーについて、言葉遣いや態度等を学び、実践練習する。
4	時間管理について学ぶ	日本で働く際の時間管理や働き方改革についても学ぶ。
5	ビジネス文章について学ぶ	ビジネスEメールや手書き、議事録の書き方等について、実践練習を行い学ぶ。
6	電話のかけ方・受け方を学ぶ	電話に関するビジネスマナーや言葉遣いについて、実践練習を行い学ぶ。
7	来客時のマナーを学ぶ	会議室の準備や、案内、席次等を含めて学ぶ
8	対話やミーティング・報告について学ぶ	対話の場面設定やビジネスでのミーティングの準備や報告までの手順やマナーについて学ぶ。
9	論理的に話すことを学ぶ	事実と自分の解釈の区別や、アンコンシャスバイアス等の理解を通して、仕事の現場で論理的に話すことを学ぶ。
10	組織でのビジネスマナー・コミュニケーションを学ぶ②	上司や同僚とコミュニケーションで望まれるマナーについて、言葉遣いや態度等を学び、実践練習する。
11	1年間のまとめと復習①	1年間で学んだことのまとめと、卒業後の職場や進学先でのマナーについて
12	1年間のまとめと復習②	1年間で学んだことのまとめと、卒業後の職場や進学先でのマナーについて
13	後期期末試験前確認	後期期末試験前確認に学んだことを確認する。
14	後期期末試験	後期期末試験
15	後期期末試験 フィードバック	後期期末試験のフィードバック等

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	「改訂版 留学生・日本で働く人の為のビジネスマナーとルール（特定非営利活動法人 日本語教育研究所編、日本能率協会マネージメントセンター発行ISBN:978-4-8005-9072-5 C3034）」
参考文献・資料等	随時お知らせします。
備考	学生の希望やその他の条件により授業スケジュールを変更する場合がある。 各授業内にリアクションペーパーの提出を求めることがある。

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	キャリアデザイン I (DB)	( TDB107 )	
講義名 (コード)	キャリアデザイン I (DB)	( TDB107 )	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	DB1	単位数	2単位
授業担当者	松橋 芙蓉	時間数	30時間
成績評価教員	松橋 芙蓉	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	選択
実務者教員特記欄	業務経験あり	授業形態	講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	自己のライフキャリアを見つめなおし、多様なキャリア形成の基礎を養うこと。自己のキャリア目標を詳細に設定し、記録し、振り返りできるようになること。
全体の内容と概要	専門学校へ進学した意味や目的を再確認し、必要なキャリア形成の知識・スキルを自ら調べてアウトプットできるようにする。
授業時間外の学修	不明点は授業時間外に学習者が調べ授業時間内に質問することとする。
履修上の注意事項等	学習者が自ら調べ、自分の意見をアウトプットさせて参加者のフィードバックを積極的に受けるスタイルとする。教員は学習者の発言を促し、授業全体をファシリテートすること。

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	キャリアデザイン授業の目的理解と学習記録の付け方理解	学び録は学習進捗と成果を記録するツールで、学生の学習履歴を追跡・分析し、目標達成に向けた計画立てを支援します。
2	目標を設定する意味と実践	WOOPを活用した目標設定で理想を思い描き、想定される障害を洗い出し、具体的な計画（考えられる障害に対する対策）を立案します。
3	オープンウィンドウ64を活用して目標設定を細分化する。	【目標設定ワーク】目標設定と自己分析を学び、心・技・体・生活のバランスを分析し、自己成長とスキル定着に役立てる。
4	オープンウィンドウ64を活用して目標設定を細分化する。	【目標設定ワーク】具体的な行動計画を立て実践方法を学び、目標達成のためのスキルを向上させる。
5	オープンウィンドウ64を活用して目標設定を細分化する。	【目標設定ワーク】行動をルーティン化し、スキル定着のために定期的に振り返りを行い、自分の成長を確認する方法を身につける。
6	細分化した目標設定を具体的な計画へと具体化する	【目標設定フレームワーク】オープンウィンドウ64を活用し、学びの目的・目標・学習方法を具体化して計画する。
7	ラーニングスキル講座のアウトプットをする。	I(U)LPワークショップ①
8	ラーニングスキル講座のアウトプットをする。	I(U)LPワークショップ②
9	自己を理解することで、自分の特性を知る	キャリアデザイン①タイプ論（MBTI）に基づいた自己分析ツールを活用し、自己の性格的特徴を知る。
10	自己を理解することで、自分の特性を知る	キャリアデザイン②就職活動で使用するスーツ着用のポイントを知る。「メラビアン法則」に基づき視覚情報の重要性を知る。
11	仕事を理解する	キャリアデザイン③「マイナビ」「企業ホームページ」を活用して、仕事理解を深める。求人を理解し、仕事選びの基準を考える。
12	外国人雇用と日本社会を学ぶ	キャリアデザイン④在留資格・技術・人文知識・国際業務と特定技能1号について理解する。自身の進路の選択肢を広げる。
13	インターンシップとは何か理解する	キャリアデザイン⑤インターンシップとは何か。インターンシップへの参加方法、インターンシップに参加した場合のメリットを理解する。
14		期末試験
15		フィードバック/追試

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	ITビジネス演習 I		(TDB109)
講義名 (コード)	ITビジネス演習 I		(TDB109)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	中島涼輔・外部講師	時間数	30
成績評価教員	中島涼輔	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は関連業界で職業経験ある講師にて実施される。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	Web、SNS、IoT等のデジタルの基礎知識について、外部企業の最前線の事例を基に体系的に学習する
全体の内容と概要	毎回双方向の質疑応答と実務上の具体例を挙げながら進める
授業時間外の学修	関連する新聞記事やニュース等、積極的に情報収集し、企業がどのような背景で各施策を実施しているかを考える
履修上の注意事項等	分からないことは分かるまで質問する

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

#### 4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	前期の学習内容の理解	・シラバス説明
2	MYWAYDESIGNの会社概要理解	・MYWAYDESIGNの説明
3	-	(祝日のため休講)
4	Web・SNS等の戦略・事例の理解	・成功事例とノウハウ
5	同上	・SNSをめぐる市場状況とこれからのネット戦略
6	同上	・グループワークによるプレゼン準備
7	-	(校外学習のため授業無し)
8	Web・SNS等の戦略・事例の理解	・MYWAYDESIGN講義を踏まえたプレゼンテーション
9	Sier・IoTの戦略・事例の理解	・Sier、IoT概要説明
10	最新ITビジネス事例の理解	・富士通会社概要・事業概要 ・最近の社会課題とプロジェクトテーマ
11	同上	・IoTプラットフォーム導入事例と顧客価値
12	同上	・富士通講義のポイントまとめ
13	同上	・#1~12の総復習
14	-	・期末試験
15	-	・期末試験の振り返り

#### 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	無し(授業では、パワーポイントにて資料を紹介していく)
参考文献・資料等	文献やHPについては授業ごとに紹介していく
備考	<u>本教員は外資系コンサルティング企業にてビジネス・IT戦略・業務改革支援等を経験しており、経験に基づく講義を展開する</u>

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	文書理解 I (DB)	( TDB121 )	
講義名 (コード)	文書理解 I A (DB)	( TDB121A )	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	DB1	単位数	2単位
授業担当者	川本 千陽	時間数	30時間
成績評価教員	川本 千陽	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体的内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組みしっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	学習の目的を理解する	ガイダンス(年間授業スケジュール、到達目標)
2	学習方法について考える	パワードリル文字語彙N2 N2の攻略について
3		演習問題
4	語彙から内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 読解 短文
5	語彙から内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 読解 短文
6	語彙から内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 読解 短文
7	語彙から内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 読解 短文
8	JLPT模試 N2 読解&解説	JLPT模試 N2 読解&解説
9	JLPT模試 N2 読解&解説	JLPT模試 N2 読解&解説
10	語彙・図での内容理解	パワードリル文字語彙N2 読解 中文
11	語彙・図での内容理解	パワードリル文字語彙N2 読解 中文
12	文章を書く力をつける	パワードリル文字語彙N2 文章の表現技法
13	文章を書く力をつける	パワードリル文字語彙N2 文章の表現技法
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必修パターン読解N2 パワードリルN2 文字語彙
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	文書理解 I (DB)	( TDB121 )	
講義名 (コード)	文書理解 I B (DB)	( TDB121B )	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	DB1	単位数	2単位
授業担当者	丹治 理恵	時間数	30時間
成績評価教員	丹治 理恵	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体的内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組みしっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	読解の基礎を身に付ける	ガイダンス(年間授業スケジュール、到達目標) 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step1 Level1 ウォームアップ①②
2	読解の基礎を身に付ける	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step1 Level1 ウォームアップ③④
3	読解の基礎を身に付ける	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step1 Level1 ウォームアップ⑤⑥
4		演習問題
5	語彙から内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step1 Level2 練習問題1日目
6	語彙から内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step1 Level2 練習問題2日目
7	語彙から内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step1 Level2 練習問題3日目
8	語彙・グラフでの内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step1 Level2 練習問題4日目
9	語彙・グラフでの内容理解できる	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step1 Level2 練習問題5日目
10	JLPT模試 N2 読解&解説	JLPT模試 N2 読解&解説
11	JLPT模試 N2 読解&解説	JLPT模試 N2 読解&解説
12	語彙・図での内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step1 Level2 練習問題6日目
13	語彙・比較問内容理解	パワードリル文字語彙N2 必ずできる！ JLPT「読解」N2 Step1 Level2 練習問題7日目
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必ずできる！ JLPT「読解」N2 パワードリルN2 文字語彙
参考文献・資料等	適宜配布
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	異文化コミュニケーション I (DB)		( TDB123 )
講義名 (コード)	異文化コミュニケーション I A (DB)		( TDB123A )
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	DB1	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組むことで、しっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	この授業の目的・ゴールを確認する。	オリエンテーション 教科書の使い方 自己紹介
2	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターン N2 基礎編 1～2 TRY!N2文法 課題配布
3		演習問題
4	話のポイントや概要が理解できるようになる。	必修パターンN2聴解 基礎編 3～4 TRY!N2文法 課題提出
5	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターン N2聴解 基礎編 5～6 TRY!N2文法 課題配布？
6	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 基礎編 7 TRY!N2文法
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解 課題理解 1～3 TRY!N2文法
8	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 課題理解 4～6 TRY!N2文法
9	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解 課題理解 7～10 TRY!N2文法
10		JLPT模試
11		JLPT模試
12	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 課題理解 11～14 TRY!N2文法
13	質問に対する的確な答えが言える。	必修パターンN2聴解 ポイント理解 15～18 TRY!N2文法
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必修パターンN2 聴解 TRY!N2文法
参考文献・資料等	適宜会話練習、定着確認
備考	授業の進捗については、クラスの状況により変更する場合があります。

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	異文化コミュニケーション I (DB)		( TDB123 )
講義名 (コード)	異文化コミュニケーション I B (DB)		( TDB123B )
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1年生
対象コース	DB2	単位数	2単位
授業担当者	近藤 聖子	時間数	30時間
成績評価教員	近藤 聖子	講義期間	春学期
実務者教員		履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語を使ったビジネスを行う上で十分な日本語力を養い、日本語能力試験N2の取得を目指す。
全体の内容と概要	N2の文字語彙文法を中心に学ぶ。試験形式と同様の4択問題を使い資格試験の対策をしっかりと行う。試験形式とは異なるが、語彙を書かせる問題にも取り組むことで、しっかりとした定着を目指す。
授業時間外の学修	授業で学んだ語彙、漢字を復習しておくこと。
履修上の注意事項等	学生の希望等によりスケジュールは変更する場合がある。出席が2/3以上の場合のみ成績評価を行う。満たない場合は単位不合格になる。

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率 X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	この授業の目的・ゴールを確認する。	オリエンテーション 教科書の使い方 自己紹介
2	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターン N2 基礎編 1～2 TRY!N2文法 課題配布
3		演習問題
4	話のポイントや概要が理解できるようになる。	必修パターンN2聴解 基礎編 3～4 TRY!N2文法 課題提出
5	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターン N2聴解 基礎編 5～6 TRY!N2文法 課題配布？
6	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 基礎編 7 TRY!N2文法
7	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解 課題理解 1～3 TRY!N2文法
8	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 課題理解 4～6 TRY!N2文法
9	N2レベルの文字・語彙・文法を確実にし、運用能力を高める。	必修パターンN2聴解 課題理解 7～10 TRY!N2文法
10		JLPT模試
11		JLPT模試
12	具体的な情報を聞き取り、メモを取りながら内容が理解できる。	必修パターンN2聴解 課題理解 11～14 TRY!N2文法
13	質問に対する的確な答えが言える。	必修パターンN2聴解 ポイント理解 15～18 TRY!N2文法
14	期末試験	学期試験
15	追試・フィードバック	Feedback

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	必修パターンN2 聴解 TRY!N2文法
参考文献・資料等	適宜会話練習、定着確認
備考	授業の進度については、クラスの状況により変更する場合があります。

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	経営戦略 I (DB)		(TDB128)
講義名 (コード)	経営戦略 I (DB)		(TDB128)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	石坂 尚	時間数	30
成績評価教員	石坂 尚	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は関連業界で職業経験ある講師にて実施される。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	アントレプレナーやイントレプレナーを目指すのに必要な知識を身につけます
全体の内容と概要	実社会に出たとき、起業を考えるとときに必要知識を身につけます
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

#### 4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	経営の前提としての知識を理解する	企業とは何だ? 「何をする企業・事業か」定義する
2	会社の存在意義を考える	経営理念、ミッション、ビジョン、バリューってなに?
3		(課題)
4	ドメインとは何かを理解する	「ドメイン」って何?
5	アンゾフの成長ベクトルを理解する	企業の成長戦略について考える
6	アンゾフの成長ベクトルから多角化を理解する	多角化について考える
7	ビジネスモデルとは何かを理解する	ビジネスモデルについて考える
8	PEST分析を理解する①	将来の外部環境を予測する
9	PEST分析を理解する②	将来の市場を予測する
10	3C分析、SWOT分析を理解する	内部環境と外部環境を検証する①
11	3C分析、SWOT分析を理解する	内部環境と外部環境を検証する②～本当の強みは何か?
12	VRIO分析を理解する	内部環境と外部環境を検証する②～本当の強みは何か?
13	復習	前期の復習
14	期末試験	前期試験
15	期末試験解説	試験の解説

#### 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	一気通貫教科書(PDF)
備考	<u>・本教員は、日本の大手メーカーにて、プロダクトマーケティング、プロダクトプランニングに従事。中小企業支援機関、学校等の高等教育機関にて指導を展開している。</u>

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	マーケティング I (DB)		(TDB130)
講義名 (コード)	マーケティング I (DB)		(TDB130)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	石坂 尚	時間数	30
成績評価教員	石坂 尚	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本授業は関連業界で職業経験ある講師にて実施される。	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	マーケティングの基礎を理解し、実社会に出たときに応用できる知識を習得します
全体の内容と概要	マーケティングの4Pを中心に実社会ではどのように使われているのかを示しながら理解します
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	マーケティングを「感覚」ではなく「理論」で身につけること

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件	下記基準に従う。出席は2/3以上が必要となる。1/3以上の欠席の場合、自動的に落第となる。		
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

#### 4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	マーケティングの必要性を理解する	なぜマーケティングが必要なのか
2	マーケティングの変遷を理解する	マーケティングの定義の変遷
3		(課題)
4	マーケティングの概要を理解する	1_要するに「マーケティング」とは何か? ③セリングとマーケティングの違い
5	顧客ニーズとは何かを理解する	2_顧客のことを、しっかり知ろう! ④欲求5段階説でお客様のニーズがつかめるか
6	知ってもらふ、買ってもらふのプロセスを理解する	2_顧客のことを、しっかり知ろう! ⑤消費者の購買行動がわかる「AIDMAの法則」
7	市場細分化を理解する	2_顧客のことを、しっかり知ろう! ⑧顧客がわかれば「市場細分化」できる
8	差別化とは何かを理解する	2_顧客のことを、しっかり知ろう! ⑩市場での位置決めをして差別化する
9	事業の脅威と戦い方を理解する	2_顧客のことを、しっかり知ろう! ⑬5つの脅威
10	市場と製品、多角化を理解する	3_「市場」をとらえて戦略を組み立てよう! ①市場における製品の位置づけを考えよう
11	戦略の基本を理解する	3_「市場」をとらえて戦略を組み立てよう! ④外部環境分析・内部環境分析とは?
12	市場調査の概論を理解する	3_「市場」をとらえて戦略を組み立てよう! ⑦「マーケティング・リサーチ」のやり方は?
13	復習	前期の復習
14	期末試験	前期試験
15	期末試験解説	試験の解説

#### 5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	これだけは知っておきたい「マーケティング」の基本と常識
参考文献・資料等	授業のPDFは各時間用で作成
備考	<u>・本教員は、日本の大手メーカーにて、プロダクトマーケティング、プロダクトプランニングに従事。中小企業支援機関、学校等の高等教育機関にて指導を展開している。</u>

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	マネーマネジメント I		(TDB134)
講義名 (コード)	マネーマネジメント I		(TDB134)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	外部講師(沼波・宮沢)	時間数	30
成績評価教員	中島涼輔	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	中央銀行に長年携わり、欧州局長を務めた教員が講義する	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	金融基礎知識全般とデジタル通貨について、外部の専門家から最先端の動向・知識を学ぶ
全体の内容と概要	毎回双方向の質疑応答と実務上の具体例を挙げながら進める
授業時間外の学修	関連する新聞記事やニュース等、積極的に情報収集し、企業がどのような背景で各施策を実施しているかを考える
履修上の注意事項等	分からないことは分かるまで質問する

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	金融基礎知識の体得	・シラバス説明 ・金融リテラシー：ライフプランニングと資産形成
2	同上	・お金と金融の役割
3	-	(祝日のため休講)
4	金融基礎知識の体得	・現金とデジタル通貨
5	同上	・金融機関の抱えるリスク・中央銀行の役割
6	金融マクロ動向の理解	・金融危機の経験(1)—日本におけるバブルの発生と崩壊
7	同上	・金融危機の経験(2)—世界的な金融危機
8	-	・#1~7の総復習
9	デジタル通貨の理解	・デジタル通貨とキャッシュレス決済の情勢
10	同上	・FinTechの実装された社会と地方創生
11	-	(休講)
12	金融マクロ動向の理解	・日本の人口問題の深刻さ・日本の財政赤字
13	-	・#9~12の総復習
14	-	・期末試験
15	-	・期末試験の振り返り

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	無し(授業では、パワーポイントにて資料を紹介していく)
参考文献・資料等	文献やHPについては授業ごとに紹介していく
備考	-

1. 本授業科目の基本情報			
科目名 (コード)	デジタル・マーケティング I		(TDB136)
講義名 (コード)	デジタル・マーケティング I		(TDB136)
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	中島涼輔	時間数	30
成績評価教員	中島涼輔	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本教員は外資系コンサルティング企業にてビジネス・IT戦略・業務改革支援等を経験しており、経験に基づく講義を	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要	
授業の目的 到達目標	デジタル・マーケティングの全体像と基礎を、体系的かつ実践的に理解する
全体の内容と概要	毎回双方向の質疑応答と実務上の具体例を挙げながら進める
授業時間外の学修	関連する新聞記事やニュース等、積極的に情報収集し、企業がどのような背景で各施策を実施しているかを考える
履修上の注意事項等	分からないことは分かるまで質問する

3. 本授業科目の評価方法・基準			
評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	マーケティング概要の理解	・シラバス説明 ・マーケティング概要①
2	同上	・マーケティング概要②
3	-	(祝日のため休講)
4	マーケティングとデジタルマーケティングの相違点の理解	・マーケティングとデジタルマーケティングの違い
5	デジタルマーケティングの事例理解	・デジタルマーケティングの身近な活用事例調査①
6	同上	・デジタルマーケティングの身近な活用事例調査②
7	-	(校外学習のため授業無し)
8	-	・#1~7の総復習
9	カスタマージャーニーの理解・設計スキルの体得	・カスタマージャーニー概要
10	同上	・カスタマージャーニー設計①
11	同上	・カスタマージャーニー設計②
12	同上	・カスタマージャーニー設計③
13	-	・#9~12総復習
14	-	・期末試験
15	-	・期末試験の振り返り

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	無し(授業では、パワーポイントにて資料を紹介していく)
参考文献・資料等	文献やHPについては授業ごとに紹介していく
備考	-

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	デジタル・ビジネス・トランスフォーメーション I	(TDB138)	
講義名 (コード)	デジタル・ビジネス・トランスフォーメーション I	(TDB138)	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1
対象コース	デジタル・ビジネスコース	単位数	2
授業担当者	中島涼輔・外部講師	時間数	30
成績評価教員	中島涼輔	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本教員は外資系コンサルティング企業にてビジネス・IT戦略・業務改革支援等を経験しており、経験に基づく講義を	授業形態	講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	デジタルビジネストランスフォーメーションの基礎となるデザイン思考を体系的に学習する
全体の内容と概要	毎回双方向の質疑応答と実務上の具体例を挙げながら進める
授業時間外の学修	関連する新聞記事やニュース等、積極的に情報収集し、企業がどのような背景で各施策を実施しているかを考える
履修上の注意事項等	分からないことは分かるまで質問する

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率×0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	デザイン思考概要の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シラバス説明</li> <li>・デザイン思考とは？</li> </ul>
2	同上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン思考が注目される背景</li> <li>・Customer Experience (CX)の重要性</li> </ul>
3	-	(祝日のため休講)
4	デザイン思考手法・設計スキルの体得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン思考のマインドセット、プロセス</li> </ul>
5	同上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロトタイピング</li> </ul>
6	同上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顧客ニーズ探索・調査手法</li> </ul>
7	同上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン思考の事例・演習</li> </ul>
8	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・#1~7の総復習</li> </ul>
9	Future Design概要理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Future Design①</li> </ul>
10	同上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Future Design②</li> </ul>
11	同上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Future Design③</li> </ul>
12	同上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Future Design④</li> </ul>
13	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・#9~12の総復習</li> </ul>
14	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験</li> </ul>
15	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験の振り返り</li> </ul>

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	無し(授業では、パワーポイントにて資料を紹介していく)
参考文献・資料等	文献やHPについては授業ごとに紹介していく
備考	-

### 1. 本授業科目の基本情報

科目名 (コード)	地球のアジェンダ I		(TDB144)
講義名 (コード)	地球のアジェンダ I		(TDB144)
対象学科	グローバルビジネス	配当学年	1
対象コース	デジタルビジネス	単位数	2
授業担当者	居山	時間数	30
成績評価教員	居山	講義期間	前期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	本講義は、実務者教員による授業である。	授業形態	講義

### 2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	今後ビジネス界を含む社会全体で取り組むべき最も大きな課題、地球温暖化に関わる社会課題について全体像を理解する。それを解決、もしくは軽減するための知恵とビジネスモデルについて調査、考察、仮説設定を行う。地球のアジェンダに関わる社会課題の認識をふかめるとともに、その軽減につながるアイデアをデジタルの技術を活かして構想する
全体の内容と概要	SDGs全般、地球温暖化、ごみ、飢餓、水、生物多様性、ジェンダー、などの社会課題の理解と改善・解決策の考察
授業時間外の学修	
履修上の注意事項等	

### 3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識 (期末試験点) 60%	自己管理能力 (出席点) 30%	協調性・主体性・表現力 (平常点) 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90~100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80~89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70~79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60~69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。	

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	地球環境やSDGsにまつわる社会課題としてどんな課題があるかを考える	なぜ地球環境問題を学ぶか？ 問題意識 全体観 社会課題の見つけ方
2	地球環境やSDGsにまつわる社会課題に関連してどんなビジネス事例があるか理解する	地球環境問題とSustainabilityを意識した 社会課題のビジネス化事例をさがす
3		休講
4	SDGsについて理解する	SDGs 歴史的意義と価値観
5	地球温暖化に関連して具体的社会課題の実例を知る	地球のアジェンダ 1： 地球温暖化 IPCC第6次評価報告書 温暖化のメカニズムと歴史 二酸化炭素 オゾン層 森林破壊 異常気象 永久凍土流出 氷山の溶解 海面上昇
6	水をめぐる問題に関連して具体的社会課題の実例を知る	地球のアジェンダ 2： 水をめぐる問題 飲料水の不足 上水・下水 下水管の汚染
7	ゴミをめぐる問題に関連して具体的社会課題の実例を知る	地球のアジェンダ 3： ゴミをめぐる問題 廃棄物 リサイクル 食品サイクル
8	マイクロプラスチックと海に関連して具体的社会課題の実例を知る	地球のアジェンダ 4： マイクロプラスチックと海 水産資源問題
9	食と飢餓と人権をめぐる問題に関連して具体的社会課題の実例を知る	地球のアジェンダ 5： 食と飢餓と人権をめぐる問題 食糧生産 フードロス 飢餓人口 フェアトレード
10	少子化・高齢化社会に関連して具体的社会課題の実例を知る	地球のアジェンダ 6： 少子化・高齢化社会 そして人権をめぐる問題を地球全体の視点で考える どんな社会課題が見えるか？
11		全校バス旅行のため休講
12	化石燃料をめぐる問題と技術のイノベーションの実例を知る	地球のアジェンダ 7： 化石燃料をめぐる問題 クリーンエネルギー 再生エネルギーの世界的普及 EV 原子力
13	各グループが後期に取り組むグループワークのテーマについて議論する	SDGs 全体像と地球のアジェンダ 前期のReview 今期のSDGsテーマ選定
14	試験	期末試験
15	追試 + 前期振り返り	追試 + 前期振り返り

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	
参考文献・資料等	
備考	本講義は、実務者教員による授業である。